

第2回京都市域における集中的な森林整備モデル実施検討会議 摘録

- ◆ 日時：平成29年9月4日（月） 10:00～16:30
- ◆ 場所：北区雲ヶ畑，左京区久多，右京区京北山国
- ◆ 出席者：以下参照

区分	名前（敬称略）	所属
委員	青合 幹夫	京都府森林組合連合会 代表理事会長
	北川 義晴	京北森林組合 代表理事組合長
	田中 俊夫	京都市森林組合 代表理事組合長
	長島 啓子	京都府立大学生命環境科学研究科 准教授
	長谷川 尚史	京都大学フィールド科学研究センター 准教授
	四辻 均	京北木材業協同組合 代表理事
事務局	納谷担当部長	京都市農林振興室
	川田課長	京都市農林振興室林業振興課
	中筋課長補佐	京都市農林振興室林業振興課
	埜村担当	京都市農林振興室林業振興課
	石浦担当課長	京都市農林振興室京北農林業振興センター
	中西担当	京都市農林振興室京北農林業振興センター

- ◆ 当日資料：以下参照

資料 No.	資料名
	配布資料一覧
資料1	次第
資料2	委員名簿
資料3	森林所有者経営意向アンケート調査用紙
資料4	森林所有者経営意向調査の結果について（速報）（非公表）

(委員からの意見等)**● モデル地区選定に係る意見**

- ・ 回答率が全体で28.3%であるが、この回答率を統計的に信用してよいのか疑問である。
- ・ 記名式のアンケートで、約3割の回答率は非常に高いが、モデル実施は必ず成功するように進めなければならない。成功の条件は、採算性がとれる条件がそろっていることと、所有者の同意を得られることである。そういう意味では、データが不足しているため、回答率を上げる必要がある。
- ・ 主伐を実施していくことを目的としているのならば、エリアごとに年齢分布を示すべきである。
- ・ アンケートで主伐に同意すると回答している所有者の森林で、採算性がとれる地域から事業を展開し、モデル地区を徐々に広げていく手法もある。
- ・ 主伐は、少なからず、批判を受ける（一旦、ハゲ山になるため）ことがあるため、目立ちすぎない場所でやるべきではないか。
- ・ 3地域でモデル実施を行うことには賛成である。地域ごとに、境界確定を重点的にやる地域等のテーマを持って実施してはどうか。
- ・ 久多地域は、今までのやり方では採算をとるのは難しそうである。バイオマス用の木材生産に特化するなどした方がよい。

● モデル地区内での取組に係る意見

- ・ 境界不明の場所が多いため、モデル地域で新たな境界確認の手法を実施し、境界確認を強力に進めてほしい。
- ・ 当該地域をモデル地区に選定していく上で、一番の項目である所有者の意向確認がアンケート結果だけでは不十分であり、この点も含めて次回の検討会議までに、再点検し、判断できるデータを示してほしい。